

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

- ### ⑤プログラム構成科目

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	社会で起きている変化 ・Society5.0、IoT、ビッグデータ(第1・2回) ・第4次産業革命とSociety5.0(第2回)
	1-6	データ・AI活用の最新動向 ・データ・AI活用のビジネスモデル、活用事例(第11回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	社会で活用されているデータ ・データの種類(調査データ、実験データ、ログデータ、観測データ)(第3回) ・オープンデータ、1次データ、2次データ、メタデータ、構造化データ、非構造化データ(第5-6回)
	1-3	データ・AIの活用領域 ・活用領域の広がり(研究開発、購買物流・調達、製造、出荷物流、マーケティング、販売、サービス)(第3回) ・活用目的(知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成)(第4回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ・AI利活用のための技術 ・データ解析の目的(予測、分類、発見)、データの可視化、非構造化データの扱い(第6回) ・AI技術(第7回)
	1-5	データ・AI利活用の現場 ・意思決定におけるデータ分析(説明的、予測的、指示的)(第8回) ・データ分析のサイクル、事例紹介(第9回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をずる	3-1	データ・AIを扱う上での留意事項 ・データ活用の負の側面、ELSI(第12回) ・個人情報保護、GDPR、忘れられる権利、オプトインオプトアウト、データの正義、バイアス(データ、アルゴリズム)、フェイク、AI社会原則(第13回)
	3-2	データを守る上での留意事項 ・情報セキュリティ、CIA、暗号化、認証(パスワード、物、生体)、マルウェア・情報漏洩等の事例(第14回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データを読む ・データの種類、尺度の種類、基本統計量、度数分布(第4～7回)
	2-2	データを説明する ・データの種類、データ表現、基本統計量、度数分布、母集団と標本(第8～11回)
	2-3	データを扱う ・集計、度数分布、母集団と標本(第11回) ・データの入力、グラフの作成、表計算(第2～14回)

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、サイバー社会(インターネット)とフィジカル社会(現実社会)とが一体化した新しい社会で生きる心構えの基本を身に着ける。また、Excel等の表計算ソフトを用いて、「データを読む」、「データを説明する」、「データを扱う」といった実用的なリテラシーを習得する。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	61	人
(非常勤)	143	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

1	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	足立耕平
(役職名)	学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	長崎純心大学 情報教育センター
------	-----------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	長崎純心大学 情報教育センター規程
------	-------------------

⑥ 体制の目的

長崎純心大学情報教育センターの審議事項として「数理・データサイエンス・AI教育に係る教育プログラムの実施および自己点検・評価に関する事項」を設け、センターでは以下の任務を担うものとする。

- ・数理・データサイエンス・AI教育に係る教育プログラムの立案・実施
- ・数理・データサイエンス・AI教育に係る教育プログラムの改善
- ・数理・データサイエンス・AI教育に係る教育プログラムの自己点検・評価

⑦ 具体的な構成員

情報教育センター長 三浦佳代子 福祉・心理学科 准教授
 情報教育センター員 吉原将太 言語文化情報学科 教授
 情報教育センター員 田代穂香 言語文化情報学科 助教
 情報教育センター員 井手口麻衣 こども教育保育学科 講師
 情報教育センター員 森幸喜 情報システム管理担当

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	21%
令和8年度予定	46%
令和9年度予定	71%
令和10年度予定	87%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

現在は全学共通科目(基礎科目)の選択科目として開講している。目標を達成するため、令和8年度より必修科目として開講する予定である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本科目は全学共通科目(基礎科目)の選択科目として全学科に開講されており、希望するすべての学生が受講可能である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムでは、学部・学科を越えて多様な学生が履修できるように、具体的なシラバスの整備と全学的な周知を行っている。シラバスには到達目標や履修条件、授業で扱うデータ分析環境を明示し、履修希望者が自らの興味関心やスキルに応じて選択できるよう配慮している。なお、令和8年度より必修科目として開講する予定である。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムでは、データ分析の演習を含むことからPCの使用を前提とするが、PCを所有していない学生も受講可能とするために、「情報演習室」を主な教室として活用する。「情報演習室」にはPCおよび安定したインターネット環境が整備されており、全学生が等しく学修に取り組める環境を確保している。また、オンデマンド講義を適宜取り入れ、学生が繰り返し講義動画を視聴することで学びを定着させることを意図している。令和8年度より、教員間での定期的な打合せを通じて、授業内容や進行方法の共有を図り、学生の修得状況に応じた柔軟なフォローアップ体制を構築する予定である。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外において学生の質問や相談に対応できるよう、複数のフィードバック経路を設けている。授業後にはGoogle Form等を用いて質問募集の機会を毎回設定し、寄せられた質問内容については次回授業で全体共有および再説明を行う。また、授業外での質問については、Google Classroomやメール等のオンラインで担当教員に問い合わせることが可能である。このように、双方向的な学習支援体制を整備することで、学修のつまづきを早期に把握し、継続的な学習指導を行うことを目指す。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

情報教育センター

(責任者名) 三浦佳代子

(役職名) 情報教育センター センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、令和6年度より全学科を対象とした選択科目として開講された。履修状況は、令和6年度は101名、令和7年度は132名であり、年々履修者が増加傾向にある。今後は、より多くの学生がデータサイエンスおよびAIリテラシーを体系的に修得できるよう、令和8年度からの必修化を検討している。
学修成果	授業後に行うGoogle Formによる授業アンケートの結果より学修成果を把握する。学習成果は情報教育センター等の関係教員間で報告し、フォローアップ体制のあり方や学修の方略について議論する場を設ける。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業科目に関しては、科目担当教員が毎回授業後に学生に提出させるGoogle Form等にかかれた意見について随時把握し、定期的に教員間での報告がなされている。 また、毎学期「授業アンケート」との名称で「授業評価」を実施しているため、そのなかで自由記述欄に記述される学生の意見等を把握する。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では、授業アンケートにおいて、「授業に満足し、後輩や友人に勧めたいと思う」という項目を設けており、受講者の満足度および推奨度を定期的に把握している。これらの結果を分析し、学生の肯定的な評価や改善要望を次年度の授業設計に反映することで、プログラム内容の質向上と履修者数の拡大を図っていく。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	教員プログラムの対象科目である「AIとデータサイエンス入門」は令和6年度より基礎科目の選択科目として開講した。令和8年度からは必修科目に変更し、履修率の向上を図る予定である。

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和9年度に、教員プログラムを修了した学生が初めて卒業し、就職をする。キャリア支援課と連携をしながら本プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について情報収集をし、見直しに活用する。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	キャリア支援課と連携しながら、教育プログラム内容・手法等について、産業界からの意見を収集する。また、本プログラムについての評価、提言を外部評価委員に依頼し、意見を収集する。これらの情報をもとに見直しを進める。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	全学科の学生が学修を楽しみ、興味を持ちながら進めることも重視している。リテラシーレベルのモデルカリキュラムに則りつつ、実社会の状況に適応したデータを活用した授業を提供し、学生たちの関心を高める。そのために、身近なAIやプログラミングの実践内容も講義で取り入れ、学生たちが楽しみながら学べる環境を整える。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	データサイエンス・AIに関する入門レベルの教科書をもとに授業を展開している。本教科書をもとにスライド教材や動画教材を作成することで、予習や復習を容易にし、すべての履修者が授業に適切に追いつけるようする。課題は、講義内容の理解を確認する小テスト形式のものや、実践的なタスクを中心に配置することで、授業のポイントや学生の理解度について、教員と学生の双方が確認しやすい設計を心がけている。

シラバス参照

講義名	AIとデータサイエンス入門
講義英語名	
講義開講時期	後期
単位	2
大分類	基礎科目
配当所属	こども教育保育学科、言語文化情報学科、福祉・心理学科 SW、福祉・心理学科 ケアワーク、福祉・心理学科 心理カウ
配当学年	1、2

担当教員

職種	氏名	所属
指定なし	◎ 田代 穂香	指定なし

ナンバリングコード	C01A007E_IJ
授業のねらいと概要	現在、データやAIによって大きく社会が変化しています。ビッグデータと呼ばれる膨大なデータをAIが分析することにより、様々な課題を解決することができる現代社会において、データ・AIの活用について学び考えることが重要です。本科目では、データ・AIによって社会で起きている変化やSociety5.0が目指す社会を理解し、社会で活用されているデータの種類について学習します。さらに、データやAIが活用されている事例や最新技術等についても確認し、データ・AIを活用する目的や方法についても学習します。演習では、企業や省庁などの実データを入手し、Excelを用いて整理・集計・分析を行います。
到達目標	AIに関する知識を教養として身につけるだけでなく、Excelの基本的スキルを習得し、企業等の実データに触れることで、「データを読む」、「データを説明する」、「データを扱う」といった実用的なリテラシーを習得すること
授業計画フリーテキスト	第1回 初回オリエンテーション 第2回 社会で起きている変化/Excelの基本的な操作方法① 第3回 社会で活用されているデータ①/Excelの基本的な操作方法② 第4回 社会で活用されているデータ②/時系列データの可視化① 第5回 データ・AIの活用領域/時系列データの可視化② 第6回 データ・AI活用のための技術①/平均の算出とその可視化 第7回 データ・AI活用のための技術②/標準偏差の算出とその可視化 第8回 データ・AI活用の現場①/大量のデータを扱う方法① 第9回 データ・AI活用の現場②/大量のデータを扱う方法② 第10回 データ・AI活用の現場③/基本統計量の算出と箱ひげ図① 第11回 データ・AI活用の最新動向/基本統計量の算出と箱ひげ図② 第12回 データ・AIを扱う上での留意事項①/度数分布表とヒストグラムの作成 第13回 データ・AIを扱う上での留意事項②/散布図の作成と相関係数の算出 第14回 データを守る上での留意事項/訂正データの扱い方とクロス集計 第15回 まとめ
授業方法	本科目は基本的に、前半は教員による前回の復習や知識教示、後半は演習の時間として展開されます。 また、受講生の進捗状況を鑑み、対面形式のほか、オンライン・オンデマンド形式を取る場合があります。 授業形態や内容は授業終了時やGoogle classroomにてアナウンスしますので、毎回確認するようにしてください。
学習方法	対面授業の場合は原則情報演習室を使用しますが、自宅でのオンデマンド時やデータ移行の便宜上、各自PC・USBの用意を推奨します。
テキスト	『AIデータサイエンスリテラシー入門』 編著：吉岡剛志 共著：森倉悠介、小林領、照屋健作 出版社：技術評論社 価格：1680+税
テキストISBN	978-4-297-14409-8

基礎科目一覧

カテゴリー	区分	ナンバリングコード	授業科目	履修年次	前期／後期	単位数	
						必修	選択
建学の精神	導入	001A000J	純心セミナー A	1	前期	1	
		001A000J	純心セミナー B	1	後期	1	
		002A000J	純心セミナー C	2	前期	1	
	キリスト教精神	001A190J_OP	キリスト教入門 A	1	前期	2	
		001A190J_OP	キリスト教入門 B	1	後期	2	
コア基礎	キャリア形成	001A377J_IJ	キャリアデザイン	1	後期	1	
	健康・スポーツ	001C780J_CO	生涯スポーツ I	1	前期	1	
	外国語	001B837E_CO	English Communication I	1	前期	1	
		001B837E_CO	English Communication II	1	後期	1	
	リテラシー	001A007J_CIJO	情報処理リテラシー	1	前期	2	
		001A816J_C	日本語表現法	1	前期	2	
		002A591J	金融リテラシー	2	後期	1	
基礎教育	情報	001A007E_IJ	AI とデータサイエンス入門	1	後期		2
		001A007J_IJ	情報処理概論	1	前期		2
	健康・スポーツ	002C780J	生涯スポーツ II	2	前期		1
	外国語 ^{※1}	001B835J_C	Grammar I	1	前期		1
		001B835J_C	Grammar II	1	後期		1
		001B837E	English Reading I	1	前期		1
		001B837E	English Reading II	1	後期		1
		001B837E	Travel English	1	後期		1
		001B831E_C	Sound Production	1	後期		1
		001B860N	スペイン語 I	1	前期		1
		001B860N	スペイン語 II	1	後期		1
		002B860N	スペイン語 III	2	前期		1
		001B829N	韓国語 I	1	前期		1
		001B829N	韓国語 II	1	後期		1
		002B829N	韓国語 III	2	前期		1
		001B820N	中国語 I	1	前期		1
		001B820N	中国語 II	1	後期		1
		002B820N	中国語 III	2	前期		1
		002B837J_C	英文講読 I	2	前期		1
		002B837J_C	英文講読 II	2	後期		1
		003B837E	Business English	3	前期		1

※1 外国語カテゴリーより2単位以上

カテゴリー	区分	ナンバリングコード	授業科目	履修 年次	前期／後期	単位数	
						必修	選択
教養教育 ^{※2}	人文科学	001A821J_C	漢字文化入門	1	前期		2
		001A780J_CO	スポーツ文化論	1	前期		2
		001A140J	心理学入門	1	前期・後期		2
		002A709J_B	世界遺産学	2	前期		2
		002A150J_H	倫理学	2	前期		2
		002A910J	日本古典文学入門	2	後期		2
		002A100J	哲学	2	後期		2
	社会科学	001A323J_C	日本国憲法	1	前期		2
		001A367J	ジェンダーと社会	1	前期		2
		001A210J_M	現代史	1	後期		2
		001A361J_GHL	社会学Ⅰ	1	前期		2
		001A361J_H	社会学Ⅱ	1	後期		2
		002A331J_H	経済学	2	前期		2
		002A321J_H	法学	2	後期		2
	自然科学	001A498J_A	心と身体健康学	1	前期		2
		001A410J	数学の基礎	1	後期		2
		002A519J	地球環境論	2	後期		2
		002A219J	長崎の食文化	2	後期		2
		003A490J	生命と倫理	3	前期		2
PBL (課題解決型)	探究	001A219J	長崎の探究	1	後期		1
		003B361J	地域サービスラーニング	3	前期		2
		001B375J	アクティブ・ラーニング	1	後期		2
		001A219J	長崎地域研究	1	後期		2
		001B377J	地域の創造	1	後期		1
		001B377J	デザインプロジェクトⅠ	1	後期		1
		002B377J	デザインプロジェクトⅡ	2	前期		1
	キャリア形成	002B377J	インターンシップ指導	2	後期		1
				3	前期		1
		003D377J	インターンシップ実践	3	集中		1
		002A366J	キャリアオーナーシップⅠ	2	前期		1
		002A366J	キャリアオーナーシップⅡ	2	後期		1
		002D379J	ボランティアの実践Ⅰ	2	通年		1
		003D379J	ボランティアの実践Ⅱ	3	通年		1

※2 人文科学・社会科学・自然科学より各2単位以上

長崎純心大学 基礎科目 カリキュラムツリー

育てたい 具体的力		DP1 建学の精神	DP2 知識・技能	DP3 思考力・判断力・表現力	DP4 主体性・多様性・協働性・共生
ディプロ マポリシー		キリスト教精神に基づいた、全人的な人格を備え、本学の建学の精神である、知恵のみちを歩み人と世界に奉仕しようとする態度を身につけている。	自らに培った倫理と教養及び専門的な知識・技能をグローバルまたローカルな課題解決の場面に応用する力を身につけている。	明瞭な根拠に基づいて思考し、適正に判断する力を身につけている。また、言語を主たる手段として自らの考えを表現するとともに、他者への理解と配慮に立った意思疎通を図る力を身につけている。	様々な他者と共生・協働するために必要な力を身につけ、且つ生涯にわたって主体的・自立的に学び続けるちからを身につけている。
	4年生	後期			
		集中			
		前期			
3年生		後期			
		集中			インターンシップ実践 (PBL)
					ボランティアの実践Ⅱ
		前期			地域サービスラーニング (PBL)
2年生			生命と倫理 (教養)	Business English (基礎)	インターンシップ指導 (PBL)
	後期		長崎の食文化		
			日本古典文学入門 (教養)		
			法学 (教養)		
			哲学 (教養)		
			地球環境論 (教養) (隔年)		
			英文講読Ⅱ (基礎)		キャリアオーナーシップⅡ (PBL)
			金融リテラシー (コア基礎)		インターンシップ指導 (PBL)
	集中				
			経済学 (教養)		
			倫理学 (教養)		
			世界遺産学 (教養)		
			中国語Ⅲ (基礎)		キャリアオーナーシップⅠ (PBL)
			韓国語Ⅲ (基礎)		ボランティアの実践Ⅰ
	前期		スペイン語Ⅲ (基礎)		デザインプロジェクトⅡ (PBL)
		純心セミナー C (建学)	英文講読Ⅰ (基礎)		生涯スポーツⅡ (基礎)
1年生	後期		社会学Ⅱ (教養)		
			現代史 (教養)		
			数学の基礎 (教養)		
			心理学入門 (教養)		
			AI とデータサイエンス入門 (基礎)		アクティブ・ラーニング (PBL)
			GrammarⅡ (基礎)		長崎地域研究 (PBL)
			English ReadingⅡ (基礎)		地域の創造 (PBL)
			中国語Ⅱ (基礎)	Sound Production (基礎)	長崎の探究 (PBL)
		純心セミナー B (建学)	韓国語Ⅱ (基礎)	Travel English (基礎)	デザインプロジェクトⅠ (PBL)
		キリスト教入門 B (建学)	スペイン語Ⅱ (基礎)	English CommunicationⅡ (コア基礎)	キャリアデザイン (コア基礎)
	集中				
			スポーツ文化論 (教養)		
			漢字文化入門 (教養)		
			日本国憲法 (教養)		
			社会学Ⅰ (教養)		
			ジェンダーと社会 (教養)		
			心理学入門 (教養)		
			心と身体の健康学 (教養)		
			English ReadingⅠ (基礎)		
			中国語Ⅰ (基礎)		
			韓国語Ⅰ (基礎)		
			スペイン語Ⅰ (基礎)		
			GrammarⅠ (基礎)		
		純心セミナー A (建学)	情報処理概論 (基礎)	日本語表現法 (コア基礎)	
		キリスト教入門 A (建学)	情報処理リテラシー (コア基礎)	English CommunicationⅠ (コア基礎)	生涯スポーツⅠ (コア基礎)

長崎純心大学 基礎科目 カリキュラムマップ

科目名	学年	凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマポリシー達成のために重要な科目			
		DP 1 建学の精神	DP 2 知識・技能	DP 3 思考力・判断力・表現力	DP 4 主体性・多様性・協働性・共生
純心セミナー A (建学)	1	◎			○
純心セミナー B (建学)	1	◎			○
純心セミナー C (建学)	2	◎			○
キリスト教入門 A (建学)	1	◎			
キリスト教入門 B (建学)	1	◎			
スポーツ文化論 (教養)	1		◎		
漢字文化入門 (教養)	1		◎		
日本国憲法 (教養)	1		◎		
社会学Ⅰ (教養)	1		◎		
社会学Ⅱ (教養)	1		◎		
ジェンダーと社会 (教養)	1		◎		○
心理学入門 (教養)	1		◎		
心と身体の健康学 (教養)	1		◎	◎	
English ReadingⅠ (基礎)	1		◎		
English ReadingⅡ (基礎)	1		◎		
中国語Ⅰ (基礎)	1		◎		
中国語Ⅱ (基礎)	1		◎		
中国語Ⅲ (基礎)	2		◎		
韓国語Ⅰ (基礎)	1		◎		
韓国語Ⅱ (基礎)	1		◎		
韓国語Ⅲ (基礎)	2		◎		
スペイン語Ⅰ (基礎)	1		◎		
スペイン語Ⅱ (基礎)	1		◎		
スペイン語Ⅲ (基礎)	2		◎		
GrammarⅠ (基礎)	1		◎		
GrammarⅡ (基礎)	1		◎		
情報処理概論 (基礎)	1		◎		
情報処理リテラシー (コア基礎)	1		◎		
現代史 (教養)	1		◎		
数学の基礎 (教養)	1		◎		
AIとデータサイエンス入門 (基礎)	1		◎		
日本語表現法 (コア基礎)	1			◎	
English CommunicationⅠ (コア基礎)	1			◎	
English CommunicationⅡ (コア基礎)	1			◎	
Sound Production (基礎)	1			◎	
Travel English (基礎)	1			◎	
生涯スポーツⅠ (コア基礎)	1				◎
生涯スポーツⅡ (基礎)	2				◎
アクティブ・ラーニング (PBL)	1			○	◎
長崎地域研究 (PBL)	1			○	◎
地域の創造 (PBL)	1			○	◎
長崎の探究 (PBL)	1			○	◎
デザインプロジェクトⅠ (PBL)	1			○	◎
デザインプロジェクトⅡ (PBL)	2			○	◎
キャリアデザイン (コア基礎)	1			○	◎
経済学 (教養)	2		◎		
倫理学 (教養)	2		◎		
世界遺産学 (教養)	2		◎		
英文講読Ⅰ (基礎)	2		◎		
英文講読Ⅱ (基礎)	2		◎		
長崎の食文化	2		◎		○
日本古典文学入門 (教養)	2		◎		
法学 (教養)	2		◎		
哲学 (教養)	2		◎		
地球環境論 (教養)	2		◎		○
金融リテラシー (コア基礎)	2		◎	○	
インターンシップ指導 (PBL)	2			○	◎
生命と倫理 (教養)	3		◎		
Business English (基礎)	3		○	◎	
インターンシップ実践 (PBL)	3			○	◎
地域サービスラーニング (PBL)	3			○	◎
キャリアオーナーシップⅠ (PBL)	2			○	◎
キャリアオーナーシップⅡ (PBL)	2			○	◎
ボランティアの実践Ⅰ (PBL)	2	○			◎
ボランティアの実践Ⅱ (PBL)	3	○			◎

長崎純心大学 情報教育センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、長崎純心大学運営の組織規程第9条第1項第9号の規定に基づき、長崎純心大学（以下「本学」という。）の情報等に関する事項を審議するため、長崎純心大学情報教育センター（以下、「センター」という。）の運営等に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 センターは、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 長崎純心大学情報ネットワーク並びに情報システムの基本方針、基盤整備及び運用に関する事項。ただし、情報政策の策定及び事務の情報化に関する事項は除く。
- (2) 教育及び研究の情報化に関する事項
- (3) 情報教育及び情報倫理の基本方針に関する事項
- (4) 情報セキュリティに関する事項
- (5) 数理・データサイエンス・AI教育に係る教育プログラムの実施および自己点検・評価に関する事項
- (6) その他情報に関し必要な事項

(組織)

第3条 センターは、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学部の教員のうちから学長が任命するセンター長
- (2) 学部の教員のうちから学長が任命する者 若干名
- (3) 財務課情報システム管理担当者

(任期)

第4条 前条第1号及び第2号の委員の任期は、2年とする、ただし、再任を妨げない。

2 前条第2号の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(開催)

第5条 センター会議は、前期2回、後期2回開催するものとする。ただし、必要がある場合は、臨時に開催することができる。

(会議)

第6条 センター会議は、委員の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 センター会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 センター長が必要と認めたときは、センター会議に委員以外の者を出席させ、意見を聴取する

ことができる。

（関係職員の出席）

第8条 センター長は、必要に応じ、センター会議に関係職員を出席させることができる。

（専門部会）

第9条 センターに、必要に応じ、特定の事項について専門的に調査・研究させるため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会の任務、組織、運営等に関し必要な事項は、別に定める。

（事務）

第10条 センターの事務は、財務課情報システム管理担当者が担当する。

（補則）

第11条 この規程に定めるもののほか、センターの運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成26年12月10日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2023年12月20日から施行し、2023年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2025年11月12日から施行し、2025年4月1日から適用する。

大学等名	長崎純心大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和7年度

取組概要

●プログラムの目的

現代のデジタル社会においては、日常生活や職業生活のあらゆる場面で、数理的思考、データ活用力、AIに関する基礎的素養が不可欠となっている。本プログラムは、これらの基礎的知識と技能を学生が主体的に習得し、データやAIを扱う際に求められる人間中心の視点と適切な判断力を身に付けることを目的とする。あわせて、日常の学修や社会活動におけるデータの理解と活用の素地を養い、デジタル社会において自立して行動できる力の育成を目指す。

●身に付けられる能力

- データサイエンスおよびAIに関する基礎的知識
- サイバー社会（インターネット）とフィジカル社会（現実社会）の融合を理解する視点
- Excel等を用いたデータの整理・加工・説明・分析の基礎的リテラシー
- デジタル技術を安全かつ適切に扱うための基本的態度と判断力

●開講科目（科目名・単位数）

AIとデータサイエンス入門（2単位）

●修了要件

「AIとデータサイエンス入門」の単位を取得すること

●プログラムの運営と評価体制

本プログラムは、情報教育センターが中心となって以下の業務を担い、継続的な教育の質保証と改善を行う。

- 教育プログラムの立案・実施
- 教育プログラムの改善
- 教育プログラムの自己点検・評価

これらの取り組みを通じて、教育内容の適切な運用と改善を継続的に図る。